行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7
統計数理研究所　村上研究室

年寄りの昔話

京極純一

会報担当理事の山岡和枝先生から，学会会報の巻頭言を書くようお電話を頂き,ただ素直にお引き受けした。しかし，何をどう書けばよいか，あれこれ考えるほどに，困惑，閉口した。その揚げ句の「年寄りの昔話」。もはや現役でない名誉会員に免じて,ご容赦のほどをお願いしたい。

1940年，旧制高校文科に入学した。文系，理系の区別，差別が始まった。文科の数学は一年生で終了。一変数の微分，積分。解析幾何入門。統計数学は平均，分散，相関係数。法学士が＜日本政治＞の研究を始めたとき，手持ちの知識はこれだけであった。

40年代，50年代，統計学は少数標本による仮説検定，心理学は測定法と因子分析などが，部外者の拝借できる道具であった。選挙の開票結果のデータに分散分析を使ったり，支持態度の度数分布に数値変換を行って正規分布にのせて検定してみたり，というデータ分析であった。

個人として図形表現が好きである。データを眺めながら，ひと目で分からせる図形を工夫することが楽しかった。59年好運が開けた。東大新聞(当時)研究所の故池内一先生が林知己夫と輿論科学協会を中心とする政治意識研究会に私を紹介，仲間入りさせてくださった。以来40年，林知己夫先生は私の先師，導師であり，私は習わぬ経を読む門前の小僧，不肖の弟子である。そして，この裏口入学は大幸運であった。

林知己夫先生が数量化理論第Ⅲ類を解説した，統計数理研究所彙報の抜刷を池内一先生の研究室で見たときの感動は忘れられない。(それまでに偏微分も行列論も独学で読んでいた。中年になると，外国語より数学のほうが独学が楽である。) ふたつの角度から数えた度数分布表を図形表現する虎の巻との出会いであり，その抜刷を早速頂戴して帰った。

政治研究の場合，分類尺度のレベルの数量的データのひとつは，選挙の開票結果である。一方に開票集計単位，他方に候補者，政党党派，この関係が一枚の図形に表現される。今ひとつは，政治意識調査の結果表である。一方に調査対象の様々な属性，他方に政治的態度などを表明した回答，この関係も一枚の図形に表現される。それぞれ，分かりやすい。

60年代，故立教大学総長長尾典男先生，同高畠敏教授と共同研究を始め，神奈川3区の得票図を皮切りに，参議院全国区の得票図まで，作った。また，NHK 教育テレビの選挙解説番組と度々協力した。数量化理論第Ⅲ類は霊験あらたかであった。小学唱歌「浦島太郎」の『ただ珍しく面白く 月日のたつのも夢のうち』とばかり，作業が進行した。

68年，いわゆる東大騒動が始まり，授業が中断した。他面，学部の行政事務に関係すべき年齢に達していた。71年法学部に配置換えとなり，政治過程論という新設講座の授業を担当することになり，＜一年生の政治学＞の日々が終った。平面図や竹ヒゴにハイゼックスの玉を刺した立体模型を眺めながら，政治意識を分析する様々な着想を楽しむ日々が終った。

古代ローマでは，「われに代わりてわが槍を担え」と父から子へ，世代から世代へと市民の義務を引きついだという。研究者であることは本人の毎日の選択であり，この例は必ずしも適当でない。しかし，老人の側が，自分の仕事の引きつがれることを願うのは，人情であろう。(終)

(きょうごく じゅんいち，日本行動計量学会名誉会員)

日本行動計量学会大会のお知らせ

1998年度の日本行動計量学会大会(第26回大会)は，立教大学にて下記要領で開催されます。

日時: 1998年9月16日(水)～18日(金)
9月15日に公開講演会開催
場所: 立教大学池袋キャンパス

現在一般講演の申し込み受付中です。講演申し込みの締め切りは6月10日(水)です。なお，抄録原稿の締め切りは6月30日(火)ですので，みなさまのご協力よろしくお願いいたします。第26回大会に関する最新情報は，

http://www.ir.rikkyo.ac.jp/bsj98/

で公開しています。一度お立ち寄りください。本大会に関する問い合わせは，大会事務局の山口和範まで。　TEL:03-3985-2325,FAX:03-3985-2388,
email:kyamagu@rikkyo.ac.jp

日本行動計量学会セミナーのお知らせ

「ビジュアル多変量解析早わかり～目にモノ見せる情報技術～」と題した日本行動計量学会セミナーが下記要領で開催されます。ふるってご参加ください。

日　時: 6月16日(火)午前10時～午後5時
会　場: 日本マーケティング協会　アカデミーホール
参加費: 15,000円(テキスト代を含む)
講　師: 多摩大学・今泉忠先生，大阪大学・狩野裕先生

なお，詳細につきましては同封のパンフレットをご参照ください。このセミナーに関する問い合わせは，立教大学の山口和範まで。

TEL:03-3985-2325，FAX:03-3985-2388,
email:kyamagu@rikkyo.ac.jp

日本行動計量学会講習会「ロジスティック回帰分析入門」

日本行動計量学会運営委員会担当委員: 岩崎　学
日　時: 1998年6月24日(水)10:00～16:30
会　場: SASインスティチュートジャパン(東京都中央区勝どき)
講　師: 山岡和枝(帝京大学)，丹後俊郎(国立公衆衛生院)，岩崎　学(成蹊大学)
テキスト: 丹後俊郎・山岡和枝・高木晴良　共著「ロジスティック回帰分析－SASを利用した統計解析の実際－」朝倉書店(本体4,800円)
参加費(テキスト1冊込，当日払い):
　正会員　15,000円
　非会員　25,000円(大学，研究機関の研究者のみ)
　学　生　10,000円(大学院生を含む)
(なお，テキスト不要の方は上記金額より一律4,000円減額)
定　員: 20名(申込先着順，ただし正会員を優先)
申込方法: 下記の宛先に氏名，所属および連絡先，(正会員・非会員・学生)の別，テキストの(要・不要)を明記し，郵便，ファックスあるいは電子メールにて申し込み。

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3－3－1
成蹊大学工学部経営工学科　岩崎　学
TEL : 0422-37-3764，FAX : 0422-37-3871
E-mail : iwasaki@is.seikei.ac.jp

照会先: 詳しくは上記の岩崎宛ご連絡ください。

日本行動計量学会春の合宿セミナー報告

企画者　繁桝算男(東京大学総合文化研究科)

平成9年3月28，29，20日の3日間，行動計量学会としては，久しぶりの企画として，泊り込みのチュートリアルとしての合宿セミナーが開催されました.実質科学の各分野(特に，社会科学，生物科学など)で，計量的な方法がいままで以上に必要とされているに

もかかわらず，若い大学院生などにおいて必ずしも行動計量学に関する関心が高いとは言えないように思います.その原因の一つは，行動計量学の面倒な敷居の高さばかり目につき，その多彩な内容の面白さが十分若い人に伝わっていなかったことではないかと言うことで，そのような現状を改善すべく，この合宿セミナーは企画されました.幸いなことに，若い方の評判は良かったようです.ランダムサンプルとは言えませんが，3人の参加者の方に感想文を書いてもらいましたので，お読み下さい.

問題点としては，以上のような主旨のもとで，講師の方のボランティア的奉仕の元に，極力参加費を抑えたことについて，他の講習会との整合性について，心配する声がありました.次の企画をする方には，このことを少し考慮して頂きたいと思います.なお，実際の参加者数は次の通りです.

参加者数	110名	
28日	宿泊者	53名(センター含む)
	日帰り	31名
	計	84名
29日	宿泊者	55名(センター含む)
	日帰り	37名
	計	92名
30日		計 85名

日本行動計量学会 春の合宿セミナーに参加して

東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻博士課程
3年 山内 豊

英語教育学が専門で，数理統計や線形数学に全く素人の私ですが，今回のセミナーに参加させていただき，多くのことを学ぶことができました。一流の専門家の講義を聞けただけでなく，予備知識のない人でも参加できるように，基礎から話していただけて感謝しています。共分散構造分析や IRT のような比較的新しい分野では，統計知識をある程度もっている人でも，基礎からの説明を聞けてよかったと言っていました。

特に2日目と3日目の6時間にわたるコース別セミナーはとても勉強になりました。岩崎学先生の「コンピュータによる実験データの分析」では，実験計画を立てる上で必要な条件を学びました。自動的に実施要因計画を提示してくれるソフトの進歩に驚くと同時に，リサーチへの意欲をかき立ててくれるすばらしい講義でした。狩野裕先生の「因子分析と共構造分散分析」では，検証的と探索的因子分析の相違，その拡張としての共構造分散分析の概要と分析手続きを学びました。数式より図式を多くして，ユーモアのセンスに溢れたわかりやすい講義で，6時間半があっという間に経過しました。

3 食を共に過ごし，懇親会もあったので，講師や参加者同士も親しくなれました。いろいろな地域からの学生，教員，メーカー，調査会社，科学警察研究所の方々など，さまざまな分野からの参加者と交流できたので，視野を広めることもできました。東大の検見川セミナーハウスを使用し，参加費用も格安だったため，学生にはとても助かりました。

このセミナーのおかげで，日本行動計量学会が身近に感じられ，学会員になって，秋の研究大会にも参加してみたいと思いました。

100 名以上が参加したセミナーの準備・運営に当たられた繁桝算男先生と大森拓也さんをはじめとする繁桝研究室の方々に心から感謝いたします。今回のようなすばらしいセミナーが今後も開催されますことを希望しております。ありがとうございました。

✧　✧　✧

松下電気中央研究所　勝瀬郁代

私は，大学時代の専門は統計数学でも心理学でもなく，メーカーのエンジニアとしての現在の業務も多変量解析とは今のところ縁のない，いわゆるズブの素人である。こんな人間でも今回のセミナーに参加して，心底よかったと思う。

合宿セミナーの会期3日間のうち，第2日と第3日は各コースに別れてセミナーが行なわれたわけであるが，私は，第2日は柳井先生の「線形数学の基礎概念とその多変量解析への応用」のセミナーを選択した。ご講義の内容は，相関，主成分分析，因子分析，重回帰分析，判別分析，正準相関分析，対応分析，線形数学の基礎，と多岐にわたった。先生は一貫してこれらの分析のベクトル空間での表現を説かれ，直観的な理解の重要さをご講義くださった。基礎

知識のない私でもたった6時間でこれだけの内容をかなり理解できたというのは驚異的である。先生のご講演のうまさにただただ驚くばかりである。

第3日は「測定論の基礎」のコースを選択した。7名の先生がそれぞれ非常に興味深い話題をご講演下さった。話題は広範囲にわたり，中には素人には難解なお話もあったが，動機づけ，つまり「まずは興味を持つ」という点では大成功であろう。時間の関係であまり議論ができなかったのが残念であったが，是非またの機会に議論したい。

さらに今回のセミナーの重要なポイントは，非会員にも広く門戸をあけて下さったことで様々な分野の人々が参加し，講義外でも貴重な交流や議論の場を持てたことである。参加費が格安であったことや，社会人にはありがたい，週末を含んだ開催であったことも重要なポイントである。今後も精力的にこのようなセミナーを開催されることを期待する。

✣　　✣　　✣

美作女子大学　坂井明子

私は貴学会の会員ではないのですが，今回 Mr.河内のお誘いで参加させていただきました。心理学が専門なので統計は必須なのですが，数学の力が停滞してしまったため，現在まで統計を数学的にではなく，ブラックボックス的に使ってきているきらいがあります。統計の専門家の集まりである「行動計量学会」なる学会のセミナーなんぞに参加して果たして理解できるんだろうか，又，きっと，非常に切れる方々ばかりなのだろうなぁ，3日間無事に過ごせるだろうか，と大いなる不安と(少しは統計の考え方がわかり，知識も増えるだろうという)ほんの少しの期待を抱いて参加したのですが，全く心配はいらず，もっと大きな期待を抱くべきでした。2日目は岩崎先生の「コンピュータによる実験データの分析」，3日目は岡太先生の「多次元尺度構成法の基礎と応用」に参加したのですが，二日とも非常にわかりやすく的確に教えていただきました。非会員なのにここまでしてもらっていいのか，というほどでした。本当にありがとうございました。けれども，今回それ以上に驚きだったのは，非常に偉い先生方のセミナー中の大変気さくな態度と「笑いと楽しみ」を追求する態度です。私の所属している他の学会では，考えられないことでした。統計のことばかり扱う学会に入っても，きっと理解できないだけだろうし，つまらないに違いないと思っていたのですが，是非入会させていただきたいと思うようになりました(なんか，みなさんの術中にはまっているような気もしますが)。

平成9年度第6回理事会議事録

日　時：平成10年2月20日　PM6:00～8:00
場　所：大学入試センター
出 席 者：飽戸 弘，池田 央，岩崎 学，岡太彬訓，久保武士，繁桝算男，田栗正章，林 文，村上征勝，柳井晴夫，柳原良造，山岡和枝

議 題：

1．第26回大会の報告

池田大会実行委員長より第26回大会の準備状況について以下のような報告があった。

- 公開シンポジウム「巨大システムと人間行動」は，日本学術協力財団との共催，豊島区役所の後援を予定している。
- 招待講演は Leiden 大学の J.J.Meulman による多次元尺度分析法関連の話題を予定。
- シンポジウムは「大震災を計量する」，「電子調査」を予定。
- 特別セッションは7つを予定。
- 一般セッションの申込締切は6月10日，抄録原稿締切は6月30日。
- 第1号通信は3月上旬発送予定
- チュートリアルセミナーについては現在検討中。
- 第26回大会のホームページを開設した。
- 京極純一名誉会員が学士院会員になられたので，第26回大会の際に招待講演を含め，何らかの形でお祝いをする(詳細は後日つめる)。
- 学生会員が発表者の場合は参加費は徴収しない。

2．第27回大会について

柳井理事長より，第27回大会は岡山大学を予定している旨の報告があった。

3. 各種委員会報告

・久保和文誌編集委員長より以下の報告があった。

ー24巻2号は2月下旬に発行予定

ー編集状況(査読・修正中9編, 新規投稿1編)

ー特集(展望)テーマとして 1)QOL関係 2)入試関係 3)統計学教育 4)環境等を予定している

ー和文誌編集委員として竹村和久会員(筑波大)と朝野熙彦会員(専修大)を追加する。

・繁桝欧文誌編集委員長より以下の報告があった。

ーVol24.No.2を発刊した

ーVol25.No.1は5編で現在初校中

ーVol25.No.2は修正採択1編, 修正再審査3編, 審査中3編

ー次のSpecial issue(Vol26.No.1)はguest editor高根芳雄会員でテーマはニューラルネットワーク, 現在まで20編の投稿があった。

ー著作権については次回までに検討して報告する。

・岡太運営委員会委員長より以下のような報告があった。

ー第64回シンポジウム「社会ネットワーク研究の今日的課題」を3月13日甲南大学で開催予定。

ー第65回シンポジウム「感性研究の新動向」を6月6日東工大で開催予定。

ー合宿講習会を3月28日～30日に東京大学検見川セミナーハウスで開催予定。

また現在計画中のものは

ー講習会「グラフィカル多変量解析(仮題)」を6月に日本マーケティング協会アカデミーホールで開催予定。

ー第26回大会前日のチュートリアルセミナーは「データ・ベースの構築とその問題点(仮題)」と「言語の国際比較調査(仮題)」。

・田栗会則検討委員会委員長より, 本務の仕事の都合により委員長を辞任したい旨の申し出があり, 了承した。後任の委員長として岩崎学理事を選出した。

4. その他

・名簿の発刊について, 5月頃までに会員名簿を発刊する。また名簿の記載事項の修正について会員に対して問い合わせを行うことについては、費用を検討の上判断する。

・学会のホームページの作成については運営委員会で検討し次回報告する。

・会員数の移動について事務局から報告があった(2月20日現在 正会員918人, 準会員49人, 名誉会員5人, 賛助会員24社)。

・次回の理事会は5月 11 日(月)に開催する。次年度の2回以後の開催日は5月11日に決める。

会則検討委員会の委員長交代

会則検討委員会の委員長が田栗理事から岩崎理事に交代することになりました。田栗先生,これまでご苦労様でした。岩崎先生, これからよろしくお願い致します。さっそくですが, 会則改正案が提示されましたので, お知らせします。

日本行動計量学会会則改正案

会則検討委員会委員長 岩崎 学

会則検討委員会ではこれまで会則の見直しの作業を進めて参りましたが, 1998年5月11日開催の理事会において下記の改正案の承認を受け, 会則16条「本会則の改正は, 総会の出席者の3分の2以上の同意を必要とする」に則り, 今年度の総会において会員の皆様にお諮りする運びとなりました。

会則の改正は学会運営における最重要案件であり, また, 総会における議論を有効かつ迅速ならしめるためにも, 今回, 事前に会員の皆様に改正案をお知らせ申し上げる次第です。ご検討して頂き, ご意見は総会の際にお願いします。

＜日本行動計量学会会則改正案＞

[現行]

5. 本会の会員は次の4種とする。

(2)準会員 学部及び大学院修士課程に在学する学生, あるいはこれらに相当する者

[改正案]

5. 本会の会員は次の4種とする。

(2)準会員 学部及び大学院に在学する学生，あるいはこれらに相当する者

[現行]

7. 会費として正会員は年額 8,000 円，準会員は 5,000 円を，その年度分として毎年4月末日までに納めなければならない。

[改正案]

7. 会費として正会員は年額 8,000 円，準会員は 5,000 円を，その年度分として毎年4月末日までに納めなければならない。また，賛助会員は1口 50,000 円で1口以上を，その年度分として毎年4月末日までに納めるものとする。

[現行]

10. 本会に次の役員をおく。

(1) 理事 若干名 うち1名を理事長とする

(2) 監事 2名

(3) 委員 若干名

[改正案]

10. 本会に次の役員をおく。

理事(うち1名を理事長とする)，監事(2名)，委員。

＜解説＞

第5条：準会員の範囲を大学院博士課程およびこれに相当する範囲に広げ，勉学中の会員の会費負担を軽減し，さらに多くの学生の学会入会を促進するためです。

第7条：これまで賛助会員の会費が明記されていなかったので，明記しました。

第10条：現在の制度では理事および各種委員数は数十名になり，若干名という記載が現実的でないため削除しました。

日本学術会議の報告

第4部会員統計学研究連絡委員会担当 吉村功

＜学術会議の報告(第4部：理学)＞

部会での審議が2月12，13日に行われた。それぞれの分野からの要望，各種の賞に対する候補者の推薦，国際会議への派遣者の決定，研連の見直しといったことが議論された。その後，3月24日に，理学系の研連，専門委員会の連絡会議があった。理学の多様性によって研連の領域を定めるのは難しいことが，議論の中で浮き彫りになったように感じられた。次の学術会議総会は4月21日から24日にかけて行われる予定。

＜統計研連の報告＞

①ISI 本部から，Annual Report に日本人で統計学の発展に寄与した人物として田口玄一氏を載せたい，と言って来たのにたいし，賛意を表して必要なら紹介文も用意する，②本研連の対象領域を文部省科学研究費補助金の分科細目での「統計科学」のキーワードを主として考える，③クローン人間等についての学術会議からの意見聴取については，理解可能な範囲でのみ対応する，④統計数理研究所の将来計画のこと，などについて議論された。

(次回研連は7月頃に開催しますので，もし活動について意見等がありましたら，身近な研連委員にお伝え下さい。)

平成10年度の小グループ研究会

1. 食行動調査研究会(新設)

代表者/連絡先：小林敬子

E-mail: keiko@jwcpe.ac.jp

〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1

日本女子体育大学

2. 計量社会学研究会(新設)

代表者/連絡先：村瀬洋一

E-mail: murase@rikkyo.ac.jp

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

立教大学社会学部

3. 行動科学研究会(継続)

代表者/連絡先：海野道郎/木谷忍

E-mail: skitani@mail.cc.tohoku.ac.jp

〒980-8576 仙台市青葉区川内無番地

東北大学国際文化研究科等気付

東北大学農学部地域計画論

行動計量学のためのインターネット (3)

—学会ホームページ開設への提案

立教大学社会学部産業関係学科 安田 雪

今回は，行動計量学会ホームページの可能性についての提案をしていきたい。現在，ホームページをもって学会情報を発信している学会の一覧は，学術情報センター(http://www.nacsis.ac.jp/)のサイトで調べることができる。学術情報センターは，学会ホームビレッジ(Academic Society Home Village)と名づけられた日本の学会の公式ホームページへのリンク集の頁をもっている。この頁は，ホームページをもち，学術情報センターに登録した213学会(1998年5月現在)へのリンク集がある。URLは，http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/index.html である。この頁では，学会名は，映像メディア学会からロシア史研究会まで，五十音順に並べられている。キーワードにより頁内容の検索も可能だ。医学，自然科学，情報科学関連の学会が多いが，社会科学や人文科学関連の学会ホームページも徐々に増えつつある。行動計量学会にも所属学会員が多いのは，日本計算機統計学会，数理社会学会，人工知能学会などであろう。比較的新しい学会，地方に基盤を持つ学会などが目立つが，これは広報活動に重点を置いているためであろう。広報にかかる経費とその効果を勘案すれば，正しい選択であるといってよい。その一方，全国規模で大々的に組織されている学会は，意外にホームページを持っていないことが多い。これはおそらく，広報の必要がないということもあろうが，意思決定にかかる時間や手続きの煩雑さなどによるものであろう。残念なことである。個別の学会ホームページが発信している内容は，学会の趣旨，学会規定，学会大会の案内，役員リスト，学会関連情報など多岐にわたる。学会ホームページは，「学会の顔」として，社会に対する広報・宣伝機能をもつ。個別学会がどのような学問分野の革新と洗練を目的に，どのような趣旨で，どのように設立されているのか，といった公式な看板の役割を果たす。社会一般及び学会員に対しては，最小限の経費で，学会から迅速な情報伝達を行うことが可能になる。学会大会情報を例に考えてみよう。今年度の行動計量学会大会のホームページは，http://www.ir.rikkyo.ac.jp/bsj98/ である。行動計量学会大会のホームページは，1997年度の大会が東北大学により実施された際に初めて作成され，会員・非会員ともにその利便性に感嘆したものである。98年大会のホームページからも，大会一号通信や，特別セッションのプログラム内容の詳細などが発信されている。一号通信発送後の最新情報を，参照することができる。WWWによる情報発信は，郵便や電話による連絡よりも人的，経済的，時間的コストが圧倒的に安い。WWWの効果は広報にとどまらない。WWWを運営する大きな副産物として，すべての情報がその過程でデジタル化され，情報の蓄積がきくことにも注目しておきたい。学会大会の担当校が情報を毎年蓄積していけば，自ずと行動計量学会大会の記録がインターネット上にデジタル情報で蓄積され，CD-ROM化することも容易になる。96年以前の大会発表プログラムや抄録集がもはや絶版であり既に入手が困難であることに比べれば，WWWやCD-ROMといったデジタルメディアの再利用性の高さ，検索性の高さは大きな利点である。セキュリティ設定を施すことにより，学会員名簿をデータベース化し，会員の連絡先や会費の納入状況などを管理することも可能になる。

個別学会が情報発信用WWWサーバをもつには，サーバマシンの経費および設置場所，予算，メンテナンスのコストや担当者の決定など，解決すべき問題は多い。第一歩としては，学術情報センターのシステムを借りることである。213学会のうち，自力でサーバをもって情報発信しているのはわずか58学会にすぎない。他の学会はすべて，センターのWWW資源の利用，すなわちサーバスペースを借りて情報発信しているのである。センターのシステムでは，CGIを使ったプログラム利用や複雑なセキュリティ管理といった高度なサーバ設定をおこなうことはできない。しかし，まずは行動計量学会の礎として，情報発信基地をおくことから始めてみるのも一案である。

関連学会等カレンダー

＜学会大会等＞

☆1998年度人工知能学会全国大会(第12回)
会 期:1998年6月16日～6月19日
会 場:早稲田大学・国際会議場
(東京都新宿区西早稲田 1-6-1)
照会先:〒105-0013 港区浜松町2-12-14
連企画気付 「1998年度人工知能学会
全国大会事務局」
Tel: 03-3433-2543 FAX: 03-5403-7216
WWW http://wwwbase.nacsis.ac.jp/jsai

☆第39回日本心身会学術集会
会 期:1998年6月18日(水)～19日(木)
会 場:新潟県民会館・新潟市音楽文化会館
照会先:新潟大学医学部第2内科学教室
松村芳幸・鈴木芳樹
Tel: 025-223-6161 Ext.2518
FAX: 025-229-1808

☆日本行動分析学会第16回大会
会 期:1998年8月19日(水)～20日(木)
会 場:筑波大学大学会館
〒040 函館市八幡町1番2号
照会先:大会準備委員会
筑波大学心身障害学系内
Tel:0298-53-4587 FAX:0298-53-4587

☆日本教育心理学会第40回総会
会 期:1998年7月18日(土)～20日(月)
会 場:北海道教育大学函館校
〒040 函館市八幡町1番2号
照会先:総会準備委員会
北海道教育大学函館校藤友研究室内
Tel:0138-41-1121 FAX:0138-43-0002
E-Mail:nuetai@hak.hokkyodai.ac.jp
http://www.jepc.hak.hokkyodai.ac.jp

☆日本統計学会第66回大会
会 期:1998年7月27日(月)～30日(木)
(27日はチュートリアル・セミナー)
会 場:中央大学(後楽園キャンパス)
照会先:日本統計学会事務局
〒106-8569 港区南麻布4-6-7
統計数理研究所内
Tel:03-3442-5801 FAX: 03-3442-5924
http://synyht2/ism.ac.jp/ABOUT/AboutJSS.html

☆日本応用心理学会第65回大会
会 期:1998年9月5日(土)～6日(日)
会 場:龍谷大学文学部
照会先:龍谷大学文学部田中昌人研究室
Tel: 075-343-3442 FAX: 0775-72-3474

☆日本性格心理学会第7回大会
会 期:1998年9月9日(水)～10日(木)
会 場:吹田メイシアター
(大阪府吹田市泉町2-29-1)
照会先:大会準備委員会
大阪学院大学人間行動研究室内
〒564-8511 大阪市吹田市岸辺南2-36-1
Tel: 06-381-8434(代表) Ext.5432
FAX: 06-382-4363
E-Mail: sogon@center.osaka-gu.ac.jp

＜チュートリアル類＞

☆統計数理研究所公開講座
概論「統計解析入門」
日時:1998年7月13日(月)～7月17日(金)
10時～16時(計25時間)
場所:統計数理研究所講堂
(地下鉄日比谷線広尾下車約7分)
内容:統計解析のための標準的な手法を,実際的な問題を通して平易に解説します。
(テキスト)鈴木義一郎著『情報量規準による統計解析入門』講談社 1995年
定 員:100名(先着順)
講習料:8,400円(税込)
申込受付:6月1日(月)～6月19日(金)
詳細は下記ホームページを参照のこと。
照会先:統計数理研究所公開講座係
〒106-8569 港区南麻布4－6－7
Tel: 03-5421-8720
FAX: 03-3446-1695, 03-5421-8796
E-mail: nakajima@ism.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/

公募情報

以下の公募は 応募期限の早い順に並んでいます。研究者等の公募情報については, 文部省学術情報センターの「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記WEBページも参照して下さい。

URL: http://nacwww.nacsis.ac.jp/index.htm

ただし, 以下には同ページに含まれない情報が掲

載されている場合もあります。

☆石川県立看護大学(仮称;平成12年開学予定)
(看護専門・基礎教育担当教員募集)
(詳細は前記学術情報センターWEBページ参照)
1 職名・人員:教授, 助教授又は講師(各分野毎に若干名)
2 募集分野:保健・治療学, 基礎看護学I・II, 母性看護学, 小児看護学, 成人看護学, 老年看護学, 地域看護学, 在宅看護学, 精神看護学, 経済学, 福祉学, 情報・統計学, 語学
3 応募締切:1998年6月20日
4 採用時期:平成12年4月1日以降
5 照会先:石川県総務部看護大学設立準備室
〒920-80 石川県金沢市広坂2-1-1
Tel: 076-226-9437
E-mail: e110301@pref.ishikawa.jp

☆法政大学工学部
1 学科等 工学部経営工学科
2 職名・人員 教授,助教授 1名
3 専門分野 認知心理学, 認知工学などについて工学的観点からの講義と研究指導を担当可能な方。当学科人間科学部門の教員としてふさわしい研究歴をもつ方。
4 応募期限 1998年6月30日
5 着任時期 1999年4月1日
6 照会先 法政大学工学部経営工学科 永野 俊
〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2
Tel & FAX: 0423-87-6350,
E-mail: nagano@k.hosei.ac.jp

☆東京理科大学理学部第一部
1.所属 応用数学科
2.職名・人員 講師または助教授1名
3.専攻分野 統計学
4.担当授業科目 数理統計学及び応用数学に関連する科目
5.応募期限 1998年6月30日
6.採用予定時期 1999年4月1日
7.照会先 東京理科大学理学部庶務課
〒162-8601 新宿区神楽坂1-3
Tel: 03-3264-4271(代表)

☆東京工業大学大学院社会理工学研究科
1 所属 価値システム(VALDES)専攻
2 職名・人員 助手1名
3 勤務内容
(1) 採用予定者の専門に応じた特別演習, 英語のアカデミック・ライティング, 英語のディベートを担当
(2) 公式文書や手紙の翻訳
4 勤務条件
(1) 文部教官としての俸給を支給
(2) 着任後着実に業績をあげ, 3年をメドに, 学外のポストに転出していただく予定
その他語学能力に関する条件等あり。
5 専門分野 価値と意思決定に関連する専門域(文学, 芸術, 歴史, 哲学, 心理学, 経済学, 政治学, 社会学, 国際関係論, 法学, 人類学, 意思決定科学, システム科学, そのほか)
6 採用予定 平成10年10月1日
7 応募期限 平成10年6月30日
詳細は 専攻のホームページを参照のこと:
http://www.valdes.titech.ac.jp/~well/common/associate.html
8 照会先 価値システム専攻 助手選考委員会
委員長 教授 橋爪大三郎
Tel: 03-5734-2667 (直通)
E-mail: hashizm@valdes.titech.ac.jp

☆産業医科大学医学部
1 所属 公衆衛生学講座
2 職名・人員 教授1名
3 担当分野 公衆衛生学領域
4 応募期限 1998年6月30日
5 照会先 産業医科大学 総務部人事課
公衆衛生学講座担当教授候補者選考委員会
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
Tel: 093-691-7112, FAX: 093-601-3446

☆小樽商科大学商学部
1 所属 社会情報学科 社会と情報講座
2 職名・人員 教授又は助教授 1名
3 研究領域 知識科学・認知科学
4 担当科目 知識情報論, 情報活用, 研究指導等ならびに知識科学特論(大学院)
5 任用予定時期 1998年10月1日, もしくは決定後なるべく早い時期
6 応募期限 1998年7月6日
7 照会先 小樽商科大学庶務課人事係
〒 047-8501 小樽市緑3-5-21
Tel: 0134-27-5208 FAX: 0134-27-5213

☆大学入試センター研究開発部
1 所属 評価・追跡研究部門
2 職名・人員 文部教官助手 1名
3 職務内容 主として次のような題目に関する研

究開発を行う。
(1) 学力の評価に関わる研究
(2) 大学入学者選抜試験の評価に関わる研究
(3) 大学入学者の入学後及び卒業後の追跡に関わる研究
4 応募期限 1998年7月31日
5 採用予定日 1998年12月1日以降の早い時期
6 照会先 大学入試センター研究開発部長 柳井晴夫 〒153-8501 目黒区駒場 2-19-23
Tel: (03) 3468-3311 (内線 1283)
E-mail: yanai@rd.dnc.ac.jp

☆静岡大学工学部
1 所属 システム工学科(システム数理講座)
2 職名・人員 助手 1名
3 担当分野 システム工学分野における教育と研究に熱意があり, 主として社会や環境, 生態システム又は工学システムにおける数理モデルに関する実験や演習を担当できる方
4 専門分野 数理モデリング, 統計科学
5 着任時期 1998年10月1日以降できるだけ早い時期
6 応募期限 1998年8月31日
7 照会先 静岡大学工学部システム工学科 野飼 享 〒432-8561 浜松市城北3−5−1
Tel & FAX: 053-478-1203
E-mail :nogait@sys.eng.shizuoka.ac.jp

☆広島修道大学人文学部
1 職名・人員 教授, 助教授または講師 1名
2 担当学科目 社会学研究法
3 応募期限 1998年9月30日
4 照会先 広島修道大学 人事課
〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1
Tel: 082-830-1105 FAX: 082-830-1325

会員の著作等

- 林 知己夫(編)「現代日本の非営利法人 −日本の財団・社団の実態調査を中心として−」笹川平和財団 1997年
- 林 知己夫他著「公益法人の実像 −統計から見た財団・社団−」ダイヤモンド社 1997年
- 林 知己夫・鈴木達三著「社会調査と数量化 −国際比較におけるデータの科学 増補版」岩波書店 1997年
- Hayashi, C., Ohsumi, N., Yajima, K., Tanaka, Y., Bock, H. H. & Baba, Y. "Data Science, Classification and Related Methods" Springer, 1998.
- Hayashi,C. et al. "Japanese Culture in Comparative Perspective" Praeger, 1997.
- NHK放送文化研究所(編)「現代日本人の意識構造(第4版)」日本放送出版協会 1998年
- 統計数理研究所国民性国際調査委員会「国民性七か国比較」出光書店 1998年。
- 豊田秀樹「調査法講義」朝倉書店 1998年

博士／修士論文紹介

＜博士論文概要＞

成蹊大学 博士(工学)
稲葉由之:秘匿を含む統計表に関する統計的推測
(主査: 岩崎 学)
論文要旨: 秘匿は, 商業統計表などの統計表において, そのセル値を表示しないことによる調査対象の秘密の保護を目的として実施される処置である。しかし, 秘匿は, 経済データを用いた実証分析などの統計解析においてデータの取り扱いを困難にし, 研究遂行の障害となっている。

本論文では, 秘匿が不完全データの一種であることに着目し, 不完全データ解析の方法論を修正した手法, 秘匿を含む統計表の持つ情報を最大限うまく利用した方法, およびモンテカルロ手法による秘匿の影響度評価などの新しい解析手法を提案すると共に, その性能を実際のデータならびにコンピュータ・シミュレーションを基に評価している。

千葉大学 博士(理学)
門田良信 : Studies on Risk-sensitive Markov Decision Processes with a Countable State Space
(主査:蔵野正美)
論文要旨: システムの状態の推移が可算状態マルコフ連鎖で記述されるマルコフ決定過程のリスク感

応性について考察している。無限期間の割り引きされた総期待利得の割引率に関してローラン級数展開を極めて緩い再帰条件の下で厳密に与え，割引率を1に近づけたときの漸近的性質や最適解の存在定理を証明している。また平均最適制約条件下での平均分散最小化問題を扱い，従来の諸結果の拡張定理を独自に導いている。次に期待効用最大化問題を一般の効用関数の下で取り扱い，停止時刻と政策をパラメータとする分布族で最適方程式を記述して，最適解の存在とその特徴付けを行っている。これらは指数型の従来の結果を含み，適用範囲を拡大するものとなっている。

＜修士論文題目＞

岡山理科大学 修士(理学)

片山 宏: 観察研究における交絡因子の影響について(主査:山本英二)

東京理科大学 修士(理学)

斉藤佳世: Measure of Departure from Conditional Symmetry for Square Contingency Tables with Ordered Categories (指導教官: 富澤貞男)

小沼友乃: Decomposition of Bivariate Point-Symmetric Density Function (指導教官: 富澤貞男)

成蹊大学大学: 修士(工学)

阿部研自:多重比較法における不等分散の影響評価 (主査:岩崎 学)

阿部貴行:実験計画法における最適計画の探索(主査:岩崎 学)

小崎昌昭:Inter-battery Factor Analysis における統計的推測 (主査:岩崎 学)

高畑一夫:臨床試験における同等性の検証－対応のあるデータの場合－ (主査:岩崎 学)

根本敦史:統計的推測問題へのニューラルネットワークの応用 (主査:岩崎 学)

千葉大学 修士(理学)

本田千晶:線型符号における2つの限界式について (主査:志賀弘典)

橋本恵志: 線形符号についてのいくつかの話題 (主査:志賀弘典)

坂下圭一: An Application of Fuzzy Integrals to Synthetic Evaluations (主査:中神潤一)

吉田 将:パーコレーションモデルの不等式について (主査:中神潤一)

迪木拉蘇来曼:Disparity 検定統計量の漸近分布と The Blended Weight Hellinger Distance Family 2nBWHDa の数理的検討 (主査:田栗正章)

石塚正樹:2曲線の有意義検定のためのブートストラプ法とその積雪重量データに対する適用 (主査:田栗正章)

瀧澤 優:K群の確率データに基づく予測とその入試データへの適用 (主査:田栗正章)

大塚征輝:Substructral Logic の意味論(主査:田栗正章)

山下省司:擬似実数体系の解釈実行系(主査:田栗正章)

東京理科大学 修士(経営工学)

千葉康敬:測定誤差モデルにおける推定関数法の検討 (主査: 吉村 功)

角野修司: 薬効薬理試験における非線形混合モデルの適用可能性の検討 (主査: 吉村 功)

宮岸秀明: 経時観察と中間解析を考慮した臨床試験のデザイン (主査: 吉村 功)

学会誌論文投稿先

和文誌「行動計量学」
〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL&FAX: 0298-53-3071
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」
〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学教養学部心理学教室
繁桝算男
TEL:03-5454-6267, FAX:03-3485-0481
e-mail: kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。
詳しくは,
〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL: 03-5814-5810
FAX: 03-5814-5825
まで, お問い合わせ下さい。

行動計量学会会員数

(1998年3月現在)

正会員	916人
準会員	49人
名誉会員	6人
賛助会員	20社

編集後記

今回, 本学会の名誉会員で学士院会員になられた京極純一先生に巻頭言をお願いしました。お忙しいところ, ご無理をお願いして書いていただきありがとうございました。

行動計量学のためのインターネットでは, ホームページ開設への提案がされましたが, 当学会でも現在開設への準備が着々と進んでおります。

乞う, ご期待!

会報を会員相互のコミュニケーションの場としても, 活用して下さい。会員の皆様からの御意見など, お待ちしております。また, 当学会員の指導した博士・修士論文の紹介もしております。

原稿の送り先は次の通りです。できるだけ, e-mailでお送り下さい。

会報原稿送付先

〒173 東京都板橋区加賀 2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
山岡 和枝
TEL: 03-3964-1211(内 2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

(会報作成担当: 山岡和枝・前田忠彦・山下智志)